〈巻頭言〉

医者を食事会に誘ってみる

長尾クリニック
長尾 和宏

数年前から「医療と介護の連携」が国策となりました。各地域の医師会とケアマネ協会が主導して「医療介護の連携事業」が推進されてきました。コロナ禍で少しお休みした感もありますが、オミクロン株の第七波以降は、介護施設のクラスター対応や独居老人の陽性者対応など医師とケアマネが必然的に密接に連携しています。国策の地域包括ケアが少し前進したように思います。国がどれだけ旗を振ってもあまり動かなかった医介連携ですが、コロナ禍がまさに医療と介護の連携を後押しした格好になっています。

一方、薬剤師と医師の連携はどうでしょうか？僕は、コロナ禍においても両者にはまだかなり距離があるように感じています。ここだけの話ですが、薬剤師は医師に対して遠慮深すぎます。陰では医師の悪口を言っていても（笑）、いざ医師の前に出ると言いたいことが言えない。ケアマネと違って（これまた怒られるかな）奥ゆかしすぎるのが薬剤師の平均的気質のように感じます。

薬剤師は医者の実態をよく知っているでしょうが、多くの医者は薬剤師の本音や実態をあまり知りません。処方箋を書いたら、まるで自動販売機のように薬が患者に渡ることを当たり前のように思っています。欠品している先発品を必死で探し集めたり、ジェネリック変更や一包化などのご苦労を知りません。まるで水や空気のように、感謝することすら忘れています。特に最近ではコロナ陽性患者さんへの対応はやたら時間と労力がかかる割にコストに合いませんが、医者はそんな苦労にまったく気が付いていません。

では、どうすればいいのでしょうか。それは飲み会（あるいは食事会）をすることです。医師とケアマネは国策でもありなにかと酒の席があります。しかし医者と薬剤師の飲み会は40年間で数えるほどしかありませんでした。日常業務が同時に終わらないのも一因でしょう。医師が処方してから薬剤師の仕事が始まるので平日に集まるのは至難の業かもしれません。しかし、「どうでもいい話」や「酒の席だからこそ吐き出せる愚痴」こそが、医者に気づきをもたらし、薬剤師が楽になる近道なのです。

医者と薬剤師は近いようで遠い存在に思えてなりません。薬の知識を薬剤師から得たくてもゆっくり話せる時間がなかなかありません。是非ともお医者さんを飲み会か食事会に誘ってみてください。月1回食事をするだけで、ずいぶんとストレスが軽減すると思います。

ISSN 2436-8504

YAKKO

薬壺

神奈川県薬剤師会　会誌

新企画

「神奈川県薬剤師会ルーキー会員（仮称）」企画のトライアルメンバー募集

令和5年度くすりと健康相談薬局 新規及び更新薬局を募集します

～女性の健康支援～2022年度かかりつけ機能向上研修会

2023 3・4

公益社団法人 神奈川県薬剤師会

2023年3月1日発行（隔月1回1日発行）　■VOL.45 No.2　■通巻440号